資料５

令和５年度　全校研究アンケート集計結果

R6.1.15　研究部

令和５年度の全校研究では、次の研究仮説のもとで進めてきました。

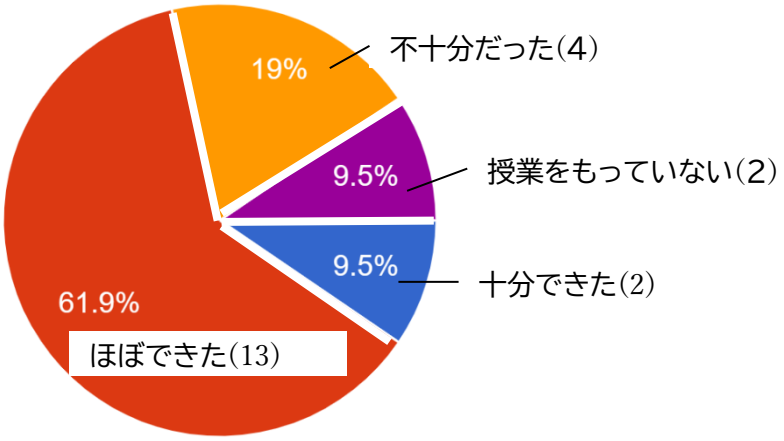
次の手立てを講じることで、「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿」を育むことができるであろう。

柱１　国語科の段階、目標等の設定
柱２　教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成
柱３　重点事項（「具体的に考える場面設定と工夫」「めあてとまとめの工夫」）に基づく、国語の授業づくり・授業実践
柱４　各教科等を合わせた指導等における学んだことの活用

★１　令和５年度の全校研究について、お答えください。

次の設問項目について、該当する評価に〇をつけてください。

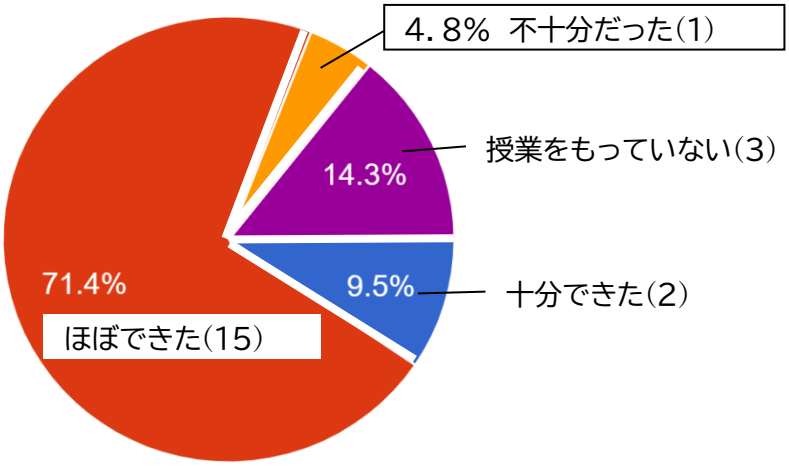
Q１　（柱１について）　学部研究を通して　学習指導要領の理解に基づく学習状況と課題を整理したり、　児童生徒一人一人の段階、目標を設定したり、年間単元の工夫をしたりすることができた。



〇 学習指導要領などを見ながら、学部で、一人一人の生徒の段階を話し合い、目標を設定できた。
〇 年間指導計画の検討や授業を見合っての改善と思う。
〇 学部で、国語の指導概念を定め、指導に関して職員間で共通理解を図ったことで、学年でつながりのある年間指導計画を立案し、実施できた。
〇 課題を実態に応じてより細かく分けてもよいと感じた。(数学)
〇 生徒の学習段階がどこまでなのかを確認することができ、どの部分を伸ばすのかを具体的に考えることができた。
〇 児童の目標や手立てを、学習指導要領の段階表や星印の教科書を基に話し合いながら決めていったことで、課題の整理などにつながった。
〇 学習指導要領の国語の目標と内容に照らして実態の捉えとねらい、学習内容を確認し、年間指導計画を見直したり、実践につなげたりした。
〇 年度初め、学部授業研究会等の機会ごとに学部全体で話し合うことができた。

○ 児童の目標に合わせて、年間指導計画を見直した。学習内容を追加したり、時数を見直したりした。
○ 学習指導要領解説や教科書解説等の内容を再確認できた。また、児童一人一人の実態や学習課題、目標等について学部職員間で協議し、共有できた。
○ 実態やグループの状況をもとに、年間目標を意識しながら、授業づくりを行うことができた。授業づくりでは、教科書等を参考にするなど国語科の内容を意識しながら組み立てた。
○ 個別の指導計画の目標を考える際に、一人一人の段階を指導内容表で確認して目標を定めることができた。
○ 段階表を使って複数の目で課題を設定できた。
○ 生徒の課題に沿って学習活動を設定した。（文章構成の難しさを改善するために書く内容を項目分けした形での手紙の授業等）
○ 学習指導要領を確認しながら児童の課題を整理することができた。
● 年度当初の実態把握が不十分だったため、実態把握の進捗状況に応じて目標や年間指導計画の修正が必要だと感じた。
● 実態に合った単元の設定が不十分だった。
● 学習指導要領の理解、一人一人の課題に応じた授業を意識できたが、実践につなげることが不十分だった。

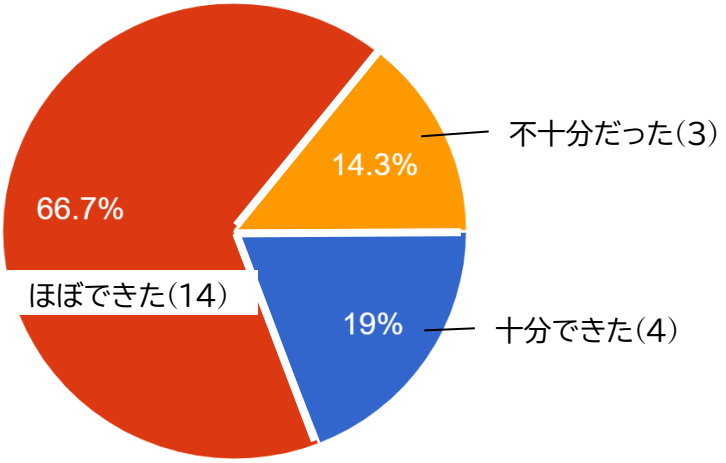
Q2（柱２について）学部研究を通して国語科及び他教科、各教科を合わせた指導等とを関連付けたり、国語科の単元計画を工夫して作成したりすることができた。
（全校授業研究会や学部授業研究会、授業を見合う会等の単元）



○ 生活単元学習や観光科と関連付けられた。
○ 観光科の単元と関連した国語科の授業づくりができた。
○ 行事や他の授業で行ったことをタイムリーに取り入れて授業を行い、生徒の伝える自立活動につながるコミュニケーションの部分も取り入れて行うことができた。
○ 学部の先生方に見ていただいた自分の国語の授業では、改善した手立てを生活単元学習などに生かすことができた。計画の作成に直接結び付いたというよりは、実践で役に立ったことが大きいと感じた。
○ 単元、学習活動、教材の設定において、生徒の理解や学びの広がりを意識して、実践した。
○ 作業学習や観光の授業で関連付け、単元計画を工夫できた。
○ 生活単元学習で自分の感想を話したり、振り返りの文を書いたりするなど、言葉で表現することを大事にした。
○ 国語で学習したことが、他の学習場面で生かされていた。職員も生徒の年間目標を意識して学習中に声掛けする様子があった。
○ 題材を身近なものにして、生活に般化できるようなものを目指した。
○ 生活単元学習で畑の振り返り、感想発表ができた。

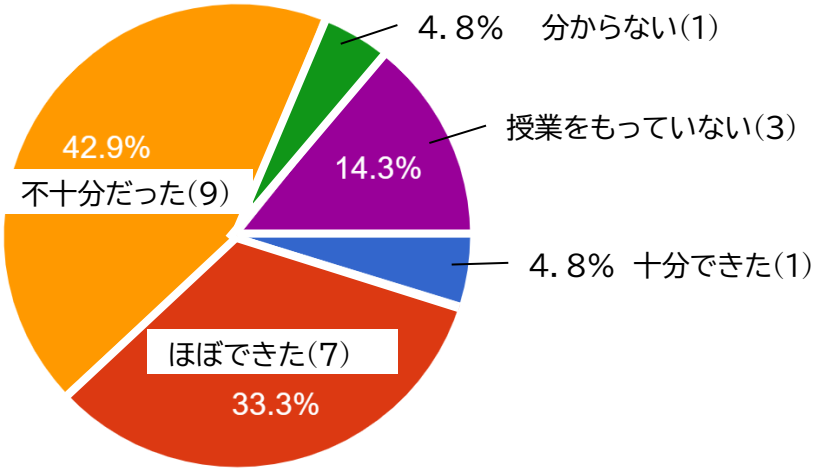
○ 観光科の授業と関連づけた。
○ ゴールを設定した単元計画の工夫が大切だと思った。
● 他教科と関連付け、生徒の気持ちを深掘りするために単元構成を工夫するべきであった。

Ｑ３（柱３について）全校授業研究会や学部授業研究会、授業を見合う会において、重点事項「具体的に考える場面の設定と工夫」「めあてとまとめの工夫」を踏まえ、授業者や参観者として提示授業や研究会を実施して学んだり、「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿」を育んだりするなど、有意義な内容にすることができた。



○ 内容や活動について、様々な選択肢を考え、吟味できた。
○ 小学部の授業は ICT が効果的に活用され、単元設定も面白くとても勉強になった。
○ いつも活発に意見が交わされ、学部を超えて指導に関わる意見交換ができた。
○ 生徒の定着を見て、次時の課題をより噛み砕いた学習シートにしたり、深く掘り下げるものにしたり、演習を多くしたりし、実態に合わせるよう心がけた。
○ 国語という教科のどの部分にスポットを当てて授業を行うのか、授業をつくる際により具体的にめあてとまとめを考えて設定していくことの大切さを改めて学ぶことができた。
○ 動画を見られるようになっているのはとても便利だと思った。事前に意見をロイロノートで記入しておき、スムーズに話し合えることができ、時間の短縮や可視化につながっていたので、話し合いに無駄がなかった。
○ 一つ一つの授業について、具体的かつ丁寧に協議、検討でき、次の授業につながるものであった。
○ 研究会では、様々な視点から意見をもらったり、他職員の意見を聞いたりすることができ、授業改善につながった。
○ 他の先生方の授業で、工夫された手立てを見ることで勉強になった。
○ 対象授業の動画を、後からいつでも視聴できるようにしたことにより、研究協議では具体的な成果や課題、改善策について話し合うことができた。また、ＩＣＴ機器やアプリを活用したワークショップ型の研究協議も効率的で有効だった。
○ 授業の積み重ねが分かるようなノートやプリントを準備できた。学びの足跡を大切にした。
○ 導入や振り返りの工夫で主体的に学ぶ姿が見られた。
○ それぞれの授業の中での工夫を知ることができた。
○ 実態把握から目標、ねらいをより具体的に示し授業できた。
○ 本時の授業では、一つ一つの言葉に関わる理解度を予測したりチェックしたりしながら言葉を使うこと、児童の反応を予測して授業を組み立てることが大切であることを再認識できた。
● 授業の組み立てという面ではまだまだ勉強不足な面がある。
● タブレット端末の視聴となると割り当てがないので、タイミングを逃し遅くなってしまった。
● １時間あたりの学習内容やねらいを精選すべきであった。

Q４（柱４について）「各教科等を合わせた指導」等において、国語の対象単元で学んだことを活用することで、般化を促したり達成感を生み出したりするなど、学びを広げる姿を育むことができた。



○ 聞くことに焦点を当てたので、様々な場面で意識できた。
○ 卒業後の生活を考えると書くことよりも、話したり聞いたりすることに主体を置いた授業にするべきと思う（高等部）。
○ 学習指導要領の目標には「日常生活の中で」という記載があった。そのため、普段の授業でも言語環境、言葉と文字、動作などを結び付けることを授業の中で意識した。
○ 不十分ではあったが、作業学習でも般化を促せるよう意識した。
○ 小学部では「がんばり発表会」で学習の成果を発表したことで、達成感を味わうことができた。
○ 年間目標を概ね共有して、授業づくりに向かえた。
○ 発表や振り返りの作文等で、自分の思いを適切な言葉で表現できるようになってきた。
○ 国語科だけでなく作業学習の振り返り等、文章を書くときに正しい言葉遣いで書くことができているか確認し、定着しつつある。
●児童が自分たちの学習の成果を他児や学部の先生方に披露し、達成感を得ることはできたが、学習したことを般化するまでには至っていないと感じる。学習状況を共有し、学校生活全般でそれを生かすよう工夫する必要があった。
● 特に各教科等を合わせた指導や家庭学習（宿題）の中で、国語科と関連付けて言葉の習得、拡充を図りたい。
●学んだことを活用する場面の設定や、機会を捉えての学習を作れなかった。
●自分がもっと各個人の国語の目標を覚えておかないといけない。
●生活単元学習担当の学級担任との情報交換・共有が不足していた。生活単元学習と連動したタイムリーな課題（内容）設定も必要だった。
● 教師側は意識して取り組んだが、生徒の達成度や学びの広がりについての評価は十分行えていない。
● 学んだことを活用し、般化できるように意識し、授業を展開したが、生徒の意識を高める工夫が不十分だったと感じる。
● 授業だけでなく、日常生活の中で繰り返し使う回数を増やす。
● 個別の指導計画を見合い、各教科等を合わせた指導等でどんな場面でどんな活動を促していくのか、職員間での検討や共通理解をする時間が必要である。

Q５　今年度の全校研究へのご意見・ご感想、次年度への課題や改善案等を記入してください。

○ 年間計画から国語、そしてその他の授業への結びつきが一本化しており、私は取り組みやすかった。

○ 研究の目指す方向性が共通理解され、取組の成果が表れてきたと感じられるようになった。
○ 他の先生方の国語科の授業を見ることはこれまで少なかったが、研究で取り上げることで、見ることができ、勉強になった。
○ 教科の授業づくりの抵抗感が少し和らいだ。
○ 国語の目標設定や指導内容などの組み立てが整理された。中学部では作業学習で振り返りの記入、発表が定着しているので、さらに国語と連携して取り組めるように思う。
○ 授業研究会や授業を見合う会で先生方の実践から学ぶことが多かった。
○ この 1 年間で教師の言葉に対する意識が向上し、普段の生活そのものが教科につながる貴重な学びだと実感できた。
● 適切な言語環境とは何か整理し、授業実践する必要性を感じた。
● 方向性はよかったと思うが、高等部としての授業実践に課題が残ったと感じている。職員一人一人が高等部として目指すべきところをもっと意識して、来年度も取り組んでいければと感じている。
● 高等部は国語の時数があまり多くないので少し厳しいと思った。
● 教科の指導はまとめが難しいと感じる。よりよいまとめの仕方を全体で考えたり、共通理解を図ったりできればよい。